

いふ訓の方に屬き恭謙讓順などは、韋夜麻比といふ訓の方に屬り、

〔伊勢平藏家訓〕慎獨の事

一慎獨と書てひとりをつゝしむとよむなり、獨をつゝしむといふは、人がみるによりてつゝしむ、人が聞によりて慎といふわけへだてなく、人の見ぬ所にも慎み、人のきかぬ所にもつゝしむをいふなり、人の見聞にかまはず、我一分のつゝしみなり、あしき事は必ずあらはれやすきものなり、惡事千里をはしるとて、遠方までも忽に知る、なり、天知る地知るとて、知れずといふ事なし、惡事をかくすとて、色々の僞をかまへていひかすめるとすれども、僞りをいへばいふ程つまりつまりのあはぬ事をいひ出すゆゑ、いよく惡事のあらはるゝ種となり、其身よりも立越てかしこき人は、いくらもありて、かくしおほへども、明きらかに見てとり聞てさとするなり、人はしるまひ、聞まひ、あらはれまひ、あらはれたら、如斯いひぬけをして濟すべしとおもふは、其身の智惠のたらぬゆゑ、人をも我がやうなるものと見くびり、人をたわけにするといふものなり、されどもかしこき人は、幾人もあるゆゑ、見咎め聞とがめて、忽あらはるゝなり、去間かりに人に聞せたくなき事、見せたくなき事、かくし度事をばすべからず、慎むべし、いましむべし、恐るべし、又獨と云字は、人が惡事をするとも、其まねをせずして、我一人慎といふ心もあり、

〔辨名〕上恭敬莊慎獨 六則

慎獨者、謂務成德於己也、大氏先王之道在外、其禮與義皆多以施於人者言之、學者視以爲道藝、而不務成德於己者衆矣、故又有慎獨之言、其見於傳者、唯大學中庸禮器有之、獨者對人之名、慎者留心之謂也、言道雖在外、然當留心於在己者、而務成我之德、是慎獨之義也、本非敬之謂矣、又非有未發已發之說矣、宋儒之不知學聖人之道、而直欲學聖人也、見夫至誠無息、而急欲學之、遂立未發已發之目、欲其無間斷、故有戒懼慎獨之說、又其專求諸心也、故以獨爲人不知而我獨知者、而急欲就一念之微、以